

# 総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(平成29年度)

## 2. 分野等別状況 (1) 国際戦略総合特区(5/7)

	総合評価 (ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算)	Ⅰ 目標に向けた取組の進捗	Ⅱ 支援措置の活用と地域独自の取組の状況	Ⅲ 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
つくば国際戦略総合特区 (茨城県、つくば市、国立大学法人筑波大学)	3.6	3.5  <u>進捗度</u> ・ライフイノベーション・グリーンイノベーションの推進による産業化促進 224%  ・次世代がん治療(BNCT)の開発実用化 0%  ・藻類バイオマスエネルギーの実用化 152%	3.4  <u>規制の特例等</u> ・搭乗型移動支援ロボットの規制緩和 等  <u>財政支援等</u> ・植物機能を活用したヒトの健康増進に資する有用物質生産システムの開発事業化 等  <u>地域独自の取組</u> ・ロボットスーツ治験事業 等	3.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新計画移行後の初年度であるが、規制緩和や調整費等の積極的な活用により、ある程度の成果が出ている。</li> <li>・規制当局との協議の結果、「現行法でも実施可能」との見解が示された事業に関しては、特区側で事前に規制関連の法令を読み込み体系的に整理をした上で、当局との協議による時間的ロスを回避することが大切ではないか。その上で、法令に抵触しないと判断した場合には、果敢に新規事業に着手すべきではないか。</li> <li>・産業化促進や藻類バイオマスなど着実に実績が上がっている事業と、次世代がん治療など実績が上がっていない事業の差が極端である。その意味で事業計画の再検討が必要ではないか。</li> <li>・(一社)つくばグローバル・イノベーション推進機構の複合的、総合的な成果についての説明も期待したい。</li> </ul>